

## 屋久島における観光需要の変化について

○柴崎茂光（国立歴史民俗博物館）・愛甲哲也（北海道大学）  
・池田優佑（鹿児島大学）・枚田邦宏（鹿児島大学）

### はじめに

1993年12月、ヤクスギに代表される独特な景観や暖温帯から冷温帯までの多様な植生が評価され、屋久島（鹿児島県）は白神山地とともに世界自然遺産に登録された。1989年に高速船が就航してから屋久島の入込客数が急増し始め、さらに遺産登録も後押しする形となり、2007年には39.4万人に達した。ここ数年は入込客数が微減傾向となっているが、山岳地域に利用が集中する傾向が依然として続いている。

入込客数には、観光客だけでなく仕事客や帰省客も含まれる。屋久島の観光業へのインパクトを把握するためには、正確な観光客数も把握する必要があるが、そうした観光統計データは、世界遺産の屋久島であっても公表されていないのが現状である。

本研究では、屋久島の入込地点（屋久島空港・宮之浦港・安房港）において、屋久島を出ようとする利用者を対象にアンケート調査を実施し、観光客の動態を把握することとした。また1997年、2001～2002年にも、同様なアンケート調査が実施されていることから、そうした先行結果と比較し、観光需要の経年変化を明らかにする。

### 調査方法

2011年11月、2012年2月、5月、8月の計4回アンケート調査を実施した。当初は、3日間を4回実施する予定だったが、8月については台風10号・台風15号の影響で2日間に短縮しての調査となった（計11日間）。アンケート調査は2種類から構成された。まず島内での消費行動を把握するための調査（以下、需要調査）で、調査員を入込地点に配置して対面方式でデータを収集した。需要調査終了後に、屋久島での観光業・観光体験に対する意向を把握するための別のアンケート用紙を手渡し、後日投函するように依頼した（以下、意識調査）。本報告では、需要調査の結果に絞って報告する。

### 需要調査の結果と考察

アンケート用紙の配布数が2503であったのに対し、回収数は2270、拒否回答数は233だった（回収率は91%）。10～15年前と比較すると、中国・四国地方からの観光客数が増加した。これは2011年3月に九州新幹線が開通したことによる影響が大きいと考えられる。また、エコツアーの利用率が上昇してきている。屋久島におけるエコツアーが観光業の主流となってきていることをこの結果は示している。その一方で、土産物の購入単価は下がっており、必ずしも屋久島の観光業すべてが成長段階にあるわけではないことが明らかになってきた。詳細な分析を行なうためには、今回の結果も踏まえつつ、TSAを作成することが必要となる。

### 引用文献

(1) 柴崎茂光・坂田裕輔・永田信（2003）屋久島における年間観光客数と観光需要特性の推計-離島におけるより精度の高い推計方法。東京大学農学部演習林報告 110：1-25。

（連絡先：柴崎茂光 shiba@rekihaku.ac.jp）